

# お母さんのどじょうなべ

岩手県 奥州市立木細工小学校 六年

菊池きくち

飛鳥あすか

「どじょう食べてえな。」

おじいちゃんが、新聞を読みながら一人言。  
「どじょう取って来て。」

お母さんが、私に大声で言った。

どじょう、食べれるんだ。

心の中で思いながら

おばあちゃんと田んぼのせっこへ行った。

大きいスコップをおばあちゃんが  
せっこに差す。

重いどろを持ち上げてたたきつける。

どろの上に散らばったどじょう。

ぴちゃぴちゃとはねている。

私がかまえて、バケツに入れる。

元気などじょうは

つるつとすべって落っこちる。

二、三日どろぬきをしたどじょう。

私が台所へ持って行く。

お母さんが笑顔で待っていた。

フライパンにどじょうを移した。

お酒を入れたら、とびはねた。

お母さんが野菜をどんどん入れていく。  
お皿にいっぱい盛っていく。

「ああ、おいしい。」

いつもは何かをかけて食べるおじいちゃん。

何もかけずに笑顔で食べている。

智果もぼくぼく食べている。

「ええ、もう無いの。」

お皿を見たら、どじょうだけ完売。

せっかく作ってもらったのに、

一匹も食べられなかった。

お母さんの味付け、さすがだなあ。

初めて作ったどじょうなべ。

やっぱりすごい、お母さん。